

## 令和 7 年 第 1 決算審査特別委員会討論

### ◎新 政 会

新政会を代表して、第 1 決算審査特別委員会に付託されました、認定第 1 号令和 6 年度滝川市一般会計歳入歳出決算を可とする立場で討論いたします。

はじめに、物価高騰が継続し景気回復の出口がなかなか見えない厳しい状況の中、市税の収入率向上、ふるさと納税には、推進室を設け意欲的に取り組み財源を確保いたしました。経費節減など無駄を省き、効率的かつ効果的な行政運営に尽力された前田市長をはじめ理事者並びに職員の皆様に敬意を表します。

令和 6 年度は滝川市総合計画の 2 年目にあたり、「心が育ち人を紡ぐ いつでも住み続けたい ちょうどいい田舎」の実現に向けた施策の実施を基本とし、事務事業の効率化を図りつつ、将来の滝川市があるべき姿を見据えた事業を実施するとともに、安全・安心な市民生活を考慮した計画的かつ適切な経費の執行に努めたものと認識しております。

以下、若干の意見を付して討論いたします。

総務費ですが、公用車賃借においては、従来の車体単体のリースから車検整備などのメンテナンスを含んだ総合的なリースに契約を変更し、公用車全体の維持管理の経費縮減に努めていたことを評価します。また、本市における民生委員の現状は定数 117 名に対し、現員は 89 名です。高齢化も進んでおり、担い手不足が深刻化しております。今後、募集要項の工夫と年間活動費 60,200 円の増額を国に求めるなどの対応が必要だと考えます。また、土木費での緊急浚渫推進事業については 1 巡目が終了したところですが、近年の日本各地で発生する記録的な豪雨を鑑み、事業の継続を要望します。

以上、新政会の討論いたします。

### ◎市民ネットワーク

市民ネットワークを代表し、第 1 決算審査特別委員会に付託されました認定第 1 号「令和 6 年度滝川市一般会計歳入歳出決算」について、認定を可とする立場で討論いたします。物価高や人口減少の影響が続く中であっても、市民生活を支える施策に取り組まれた前田市長をはじめ、市理事者、関係職員の皆様のご努力に深く敬意を表します。

令和 6 年度決算においては、経費節減や財源確保の工夫により約 9 億円の黒字を確保できたことを高く評価いたします。厳しい財政環境下であっても、健全な財政運営を意識された成果であると考えます。しかし、公共施設の老朽化や地域交通の維持、人口減少に伴う税収減など、中長期的な課題は依然として厳しい状況です。今後は EBPM の考え方を取り入れ、限られた財源を効果的に市民サービスへとつなげていただきたいと思います。また、自主財源の柱である「ふるさと納税」については、安定的な寄付確保のため、本市の

魅力をさらに発信していかれることを期待いたします。

以上を申し上げ、市民ネットワークの賛成討論いたします

#### ◎公 明 党

会派清新を代表いたしまして、第1決算審査特別委員会に付託されました「令和6年度滝川市一般会計歳入歳出決算」を全て可とする立場で討論いたします。

令和6年度はコロナ禍明けの世界情勢の不安定化、人口減と物価高騰、病院の経営悪化など、想定外の事態に次々と直面しながらも前田市長を先頭に市理事者、関係職員の皆様のご尽力により予算執行に当たられたことに対し、敬意を表します。特にこの厳しい物価高騰の中、市税収納率が大幅に増加したことは評価に値いたします。今後も全職員で知恵を出し合い、市民の意見に耳を傾け吸い上げながら、利便性と業務効率化を追求し、投資と節制のバランスの良い持続可能な街づくりをされることを期待するとともに、次世代を担う子どもたちの成長環境づくりや、地域の活性化、市民の健康安心安全につながる投資についても積極的な財政運営を求めてまいります。

以上をもちまして討論いたします。

#### ◎公 明 党

私は公明党を代表し、第1決算審査特別委員会に付託されました認定第1号、令和6年度滝川市一般会計歳入歳出決算の認定に対し、賛成の立場で討論いたします。

令和6年度は、長期化したエネルギー高騰や食料品を中心とする物価高騰により、まだまだ市民生活が苦しい状況にありました。また、懸案になっていた駅周辺の整備は、旧スマイルビルの全ての所有権を取得することで、新たな計画のスタートを切ったところでありましたが、将来的な財政見通しの予測ができないことにより、年度末に一旦停止との状況に至っております。

このような状況の中、近い将来、滝川駅周辺地区の再生整備事業が再始動することを望む市民がいる一方で、滝川市の将来の財政負担が重くのしかかり、これまで受けていた市民サービスが抑制されるのではと心配する市民がおります。私は、いったん立ち止まったこの機会に、全ての事務作業を総点検するよい機械であると思っております。その意味において、令和6年度の決算では、歳入・歳出の差し引きで9億7,478万円の剰余を生み、全体として事務事業の効率化などで16億円以上の基金の積立ができたこと、これらは偏に理事者・職員の皆さんが財政を立て直し、次へ進むために努力してきた成果であると思っております。

よって、認定第1号を可として、討論いたします。